

自然災害との共生を目指したレジリエントな地域社会の模索

地域資源マネジメント研究科 矢ヶ崎 太洋

**キーワード** 地理学、災害、レジリエンス、地理情報システム**研究概要**

現代では、地球規模の気候変動や、グローバルな人口移動の活発化によって、大規模災害が増加する可能性が指摘されてきた。従来の防災政策の基本であったハザードを排除する防災政策だけでは、大規模災害の根絶には至らなかった。その中で、復元性や回復力を意味するレジリエンスの概念が着目された。レジリエンスは、攪乱(災害)によって被害を受けたシステム(人間社会や生態系など)が復元する性質および能力と定義される。レジリエンスの概念は災害の発生を前提としており、災害と地域社会の共生を目指した概念である。災害後に早期の復興を実現するとともに、未来の災害に対する防災力を向上することができる地域社会をレジリエントな地域社会と呼び、その実現は現代でも重要な論点である。本研究では、レジリエントな社会の実現に向けて、自然災害と地域社会との関係性をレジリエンスの概念から模索している。なお、現在の研究対象地域は、三陸沿岸地域と但馬地域であるが、今後は兵庫県の瀬戸内地域にも進出する予定である。

アピールポイント

地域社会のレジリエンスは、地域の文化、経済、災害リスクなどを理解することが必須であり、地域調査や地理情報システムを用いたアプローチを積極的に活用している。また、レジリエンスの概念は自然災害だけでなく、経済危機やコロナ禍なども対象できる汎用性の高い概念であり、様々な事象に応用が可能である。

応用分野

地理学、社会学、文化人類学、まちづくり、防災・減災、都市計画、危機管理など